会議録様式

審議会名	令和5年度第2回杉戸町立図書館協議会
開催日時	令和6年1月18日(木) 午後2時00分～4時00分
開催場所	杉戸町生涯学習センター 集会室1、2
会議の議題	(1) 令和4年度 杉戸町立図書館サービス計画の報告について (2) 令和5年度 杉戸町立図書館サービス計画について (3) 令和5年度7月～12月の運営報告について (4) カルスタすぎとの運営方法について(図書館) (5) その他
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 非公開(公開の場合傍聴者数5名) (非公開の場合理由)
出席委員氏名 (敬称略)	正司 顯好、小山 裕之、千葉 耕平、寺崎 恵子、濱田 幸子、 齋藤 伸夫
審議の概要	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和4年度 杉戸町立図書館サービス計画の報告について (2) 令和5年度 杉戸町立図書館サービス計画について (3) 令和5年度7月～12月の運営報告について (4) カルスタすぎとの運営方法について(図書館) (5) その他</p> <p>2 審議の概要</p> <p>(1) 令和4年度 杉戸町立図書館サービス計画の報告について</p> <p>委員)4ページの地域行政資料の充実の項目について、前回の協議会で、地域資料はどのくらい発行しているかという質問をして、175点という回答があった。地域資料はやはり、杉戸町が集めなければ、他のところで集められない資料ばかりなので、175点資料があるならば175点収集するべき。目標としている数字が妥当なのかということ、そして175点に対して107点の実数のため、この部分は評価Cなのではないかと考えるが、どうか。</p> <p>事務局)地域資料の資料数「175点」だが、全てが毎年発行されているものではない。毎年発行されている資料だと、実数としては「77」となる。中には不定期刊行であったり、長期的な間隔で発行されていたり、発行はしたが今後発行する予定が未定という資料も多く含まれている。書架の所蔵可能数との兼ね合いで、どこまでの資料を所蔵し、いつまで保存しておくのかという精査が必要な部分である。今現在、地域資料の書架は整理の途中であり、棚が空いている状態になっている。委託業者とは定期的な選書ミーティングを行っており、地域</p>

資料についても会議を何度か行った中で、杉戸町の資料以外にも、もう少しジャンルを広げてもいいのではないかと、ということで、精査を進めている。他にも会議の中で挙げたのは、今現在、地域資料の分類がきちんとされていない部分もあるという事。図書ラベル等も含め、きちんと分類し直すこと。例えば、現在個別に配架されている資料としては、心学関係の資料がある。それ以外に個別で展示する資料があっても良いのではないかと、という意見が挙がり、埼玉県資料にある杉戸町の民話も含めて収集するというのはどうだろうかという話は挙げている。この他に挙げた意見として、杉戸町だけでなく埼玉県を舞台にした資料を集めてみるのはどうだろうかというものだった。埼玉県の作家ということも検討はしたが、作家全員が出身地等を公表しているわけではないので、それを特定してしまうのは良くないのではないかと、いう話になっている。そういった意味でまだ途中であり、地域資料の整理が進んでいると言えない状況になっている。また、地域資料全てを集める必要はあるのか、図書館に所蔵した方がいい資料なのかということも含めて、精査も進めなくてはならない。基準として考えるのであれば、毎年必ず発行される資料が77点。次回の発行が未定になってしまう可能性のある資料も含めると、更に少なくなると考えられる。また、いわゆる冊子化していない資料、パンフレットやチラシ類などをどこまで集めるか、保管場所も含めて、今後相談していきたいと考えている。

事務局) 地域資料について、サービス計画を立てて、通常業務と並行しながら行っている。地域資料というのは、とても重要な業務だと考えている。現在張ヶ谷主査が幸手市と宮代町の現地に赴き、地域資料をどういった形で集めているか？杉戸の図書館の地域資料をもっと良くするために、調査を行っているので、ご理解をいただきたい。

(2) 令和5年度 杉戸町立図書館サービス計画について

委員) 2ページの資料の収集と保存について、読書のニーズに答えるための利用者アンケートを実施しているが、それに対して毎回資料の充実という項目が上位に上がっている。なので目標としてアンケートを実施するだけでなく、その先の段階のアンケートの意見に応えるべく、どのようにしていくか？というところを目標にしなければ、アンケートを行うだけで終わる目標にな

っ

てしまうのではないかと。また、該当する数値指標について令和5年度の1人当たりの図書購入費が225.3円だが、県の平均が227円なので、目標としては県の数値を目指したらどうか。

事務局) 毎年図書資料について、本がずっと値上がり続けているので、購入出来る冊数が減ってしまう。予算としては毎年1000

万円を要求し続けている。

委員) 県の平均数値を示して、ぜひ少しでも多く予算獲得できるように頑張ってもらいたい。

委員) それぞれに数値目標と実数が出ているが、今年度の目標が前年度と同じ数字になっている。前年度に目標を達成しているのだから、次の年の目標は前年度を超えるという意味で、その実数を目標の数値にしたらどうか。

事務局) 計画当初に立てた目標は、5年間の計画で逡増になるように数値を計上している。途中で数値を変えるということが、運営上良いのかどうかという事について、検討させてもらいたい。

委員) 利用者に応じたサービスを提供する図書館にある目標で、多文化サービスで図書館案内を英語と中国語に訳すという内容があったが、英語と中国語だけでは不足なのではないか。他の言語

を挙げればきりが無いが、正規に依頼をしなくとも、簡略的に翻訳ができる人などに頼む、また、人でなくとも機械翻訳などを活用する形で英語と中国語以外にやってみた方がよいのではないか。

事務局) 人口統計を町民課に出してもらって割合を見ると、1番多いのは中国の方。杉戸町の日本語教室の方に話を直接した時に、中々難しい問題だと感じた。理由として1つは、日本語教室に来る人たちがどこの国出身の方なのかがかなり毎回変わる。先月はインドの方が多かったが、その前はベトナムの方が多かったという様になる。その際、中国の方はどうかという話になると、ほとんどが教室には来ないとのことだった。いわゆる就労ビザで滞在している方が多く、短期で母国へ帰ってしまう方が多いので来ない。また、どういった資料が日本語教室の方として必要かという話になった時に1番欲しいのは問題集だという話だった。しかし、テキストは図書館として所蔵できないので難しいところ。

委員) 日本語教室のボランティアに関わっているので、やはりテキストが欲しいという要望があったこと、また、教室に来る方についても理解ができる。そして体感にはなるが日本語教室に来る方は日本語がよく話せる人が多い。読み書きはレベル差があるが、ひらがな・カタカナが出来る人はある程度、母国で勉強してきた人。その人たちの中でやはり漢字が一番難しいと聞く。その人たちが今回の翻訳した利用案内の読める対象になるかどうか、分からない。確かに中国の方が多いので中国の方に知らせたいというのは分かるが、他の言語も杉戸町の中で移動・変動はあるが、その辺りは状況に合わせて翻訳等を行ってもら

いたい。

事務局)今回は事前に県の国際協力協会に見積書を出してもらって、2か国分だけ予算を計上している。今年度、審査が通れば、来年度は英語と中国語の2言語分は翻訳することが出来る。そして利用案内とは話は少し変わるが、日本語の導入資料としてどういうものが必要かということで、日本語教室の方に聞いたところ、例えば児童書の日本紹介や、日本文化について知ることができる本などの方が日本語の導入としては、非常にいいという話があった。そして今回、株式会社図書館流通センターの主催する洋書選書会に行き、その中で日本語教室の方を呼ぶことを念頭において探してみたが、英語以外にあまり取り扱いがないと言われた、何冊か選書をして見たが、価格も通常の書籍より高価にはなる。

委員)日本語教室から言えば問題集が欲しいというのは確かだと思う。同じ時間帯で使用することになると被ってしまうので使えない。午前の部と夜の部であれば使えるけども、同じ問題集は1冊しかなく、日本語教室に同じレベルの人が2人来ると別々に使えない。問題集というのは図書館で購入できないという事はあるかもしれないが、そこまで高価な資料ではないので、町や国際交流協会を交えて進めていってほしい。

事務局)日本語教室の方と話をし、図書館でレファレンスや資料に関する相談を受けることはできると伝えたところ、知らなかったということで、利用団体としての登録をしてもらった。相談があれば受け、またこちらから相談することもあるかと思うので、改めて今後、活用いただければという話はしている。日本語を学ぶ人の為の漢字の成り立ちであれば問題集ではないので、そういった資料の購入も含めて相談させていただければと考えている。

委員)12ページの障害者サービスに関して、新聞を読んでいたところ、偶然、読書バリアフリー法からどのようにして図書館が動いているかという事を取り上げた記事を見つけ、「りんごの棚」というものがあることを知った。そういった取り組みを紹介していくということも、目標の中に入ってくるのではないかと。

事務局)りんごの棚は図書館にあるが、貸出回数が非常に少ないので棚の位置を変えるか、もしくは周知を見直さなければならないという話があった。そして障がい者サービスの関連として、第4種特定郵便物の申請がある。特定判定施設に認定されたので、それも含めて今後どのようなサービスを行っていったらよいか、図書館に今回追加するサービスと障がいをお持ちの方が来館したときにあった方がいいサービスはあるかということで、障がい者協議会の方と1度話し合いの席を設けた。その際挙がったのが、AVブースの予約、通常は一般

利用者向けに予約を行っていないが、事前に申請があった場合、その場所を取り置いておくということや、視聴覚資料でいわゆる視覚障がい、聴覚障がいの方に対応した映画の一覧を点訳して作成する、あるいは点訳ではなくともすぐに探すことができるように別枠で一覧表を作成しておくというのも1つの方法であるかと思う。

委員) 学校等で発達障がいや、様々な障がいを持つ子どもたちが多くいると思うので、学校とのつながりも含めた上で、つながりを作っていくというのは必要だと感じた。そしてもう1つ見つけた新聞記事で、障がい者学校のアート展示があったというものがあり、そういったイベントが生涯学習センターの方であるとなった時に、やはり図書館の強みというのはそういった側面もあると思うので色々な意味で人とのつながりを把握して、つながりをもっと密にしていこうというような発信の仕方もあるのではないかな。

事務局) 学校やそういった施設というのは、考えから少し外れたところがあったと思うので、今後は意見を参考にしながら支援学級の方や、施設の方などと相談させていただきたい。

委員) りんごの棚については、図書館まつりの時にりんごの棚の部分だけを別置して、本を紹介するというコーナーを作ってもいいのではないかと考えている。恐らく図書館のコーナーにあるだけだと、中々目につかない。別置をして、利用者にこんな本もあるのだということに気が付いてもらうという意味では、図書館まつりでやることに意味があるのではないかと考える。是非検討いただきたい。

事務局) 図書館まつりもそうだが、毎年12月に生涯学習センターで行っている障がい者週間記念事業の時にという話は挙げたことがある。その際には実現には至らなかったが、特別な展示があってもいいのではないかと話があったので、展示を行っている委託業者に相談をしたい。委託業者は基本的に1年間の予定を立てて展示を行っているというので、その時にも検討するか、例えば常設展示ではなく、臨時特集として行うなど、検討したい。

(3) 令和5年度7月～12月の運営報告について

委員) 説明があった図書館主催事業の中で、中学生の社会体験チャレンジについての感謝を申し上げたい。本好きの子どもたちが図書館での仕事をしたいという希望をして図書館へ赴き、体験後に図書に関わる仕事に就きたい、少しでも町の図書館の運営に関わったという体験が、子どもたちが前向きな進路や意欲につながると思うので、本当にありがたい。また、今年の夏休みに夏休み読書講座として、宝石せっけんを作ってみよう!を新たに開催

したということで、子どもたちは本を読む際、物語は手にするが、科学の本を自分で手に取る機会はありません。傾向があるので、こういった夏休みの宿題とかも兼ねて、読書の新たな分野を発掘するという意味でも、本当にありがたい。

委員) 科学と本を組み合わせることは非常に良いと思う。私はイベントで検査センターの方に行った。その中で行事の1つとしてビタミンCの検出の実験をおこなった。昔を思い出して、このようにやれば子どもたちに関心を持って、楽しくて勉強できるのではないかと感じた。

(4) カルスタすぎとの運営方法について(図書館)

委員) 指定管理制度が1番に上げられるが、私もインターネットで検索してみたが、やはりメリットとデメリットは両方あり、一旦導入したが、その後指定管理者制度をやめたという市町村もある。どういった理由で採用して、辞めたのかまでは分からないが、その辺を十分に注意しながら進めていかなければならないと感じた。また、基本的に現在は管理するためにどの位のお金を使っているのか。例えば指定管理者に全体を委託することに対する費用のシミュレーションはできているのか。最終的には予算の問題が一番大きいと思うので、それが大事なことだと思う。

事務局) 現時点ではできているが、今回は資料として用意していない。次回に提出する。

委員) この拡充イメージ記載の各月の「2」という数字は職員2名という意味か、それとも2日行くということか。

事務局) 図書館から外部に出向くのが週に1回だが、例えば第1週は西公民館図書室、第2週はコミセン図書室、第3週は西公民館図書室、第4週はコミセン図書室、例えば第5週がある月については、2館以外に割り振るなどそういった想定である。

委員) 考えられる運営方法について、運営方法は3パターンあるものだと思う。会計年度任用職員がいたとしても直営が1、そして今と同じように正職員と一部委託が2で、そして3が指定管理者制度、その3つからの選択になるかと思うが、そうは考えられないのか。

事務局) 費用的に、直営だった運営が一部委託になり、今の体制から直営に戻すというのは、いささか現実的ではない。ただ検討すべきというご意見があれば、それは勿論記載する。

委員) 以前、町が委託会社に支払う委託料の利益など、納得のいかな

い部分があったので、きちんと金額を提示していただきたい。直営でやった場合も含め、直営、一部委託、そして指定管理その3つに関して費用を提示してほしい。納得いくように説明してほしい。

事務局) 人数は減らすが、採用も抑えている。年度によって、町も様々な業務が増えてくるため、各課で必要な人員も新たに出てくるので、それで相殺されてしまうということもあることから、その点をご理解いただきたい。また費用について、今回の資料作成にあたって見積もりを取っているのが、令和5年7~8月頃である。最終的には政策会議が入る前に正確な最新の情報で見積りをして、金額が出るので正式な金額ではないことはご了承いただきたい

事務局) 今回直営、一部委託、指定管理ということで、資料を用意していないので、次回の協議会の中で委託料、人件費などそういったお金がどのくらいかかるという事を示せるように検討したい。

委員) 次回というのは、3月か。

事務局) 相違ない。

委員) これから庁舎を立て直すという話や、様々な公共施設が古くなってきたと言っている状況で、その指定管理の金額を継続して町は出せるのか？途中で指定管理が出来ないからと途切れることがないように保障されているのか？

事務局) いずれにしても、今後の運営方法についてはどの方法であれ、良い住民サービスの向上、経費の節減、総合的に検討して、皆様からご意見をいただいた上で、より良い運営方法について検討していきたいと考えている。委員のご指摘の通り、庁舎や道路など色々な予算がかかってくるので、その辺りは財政部局ともよく協議しながら行っていきたいと考えている。

委員) 指定管理にしたが、次の5年は指定管理のお金出せないで指定管理を辞めるとなった時に、図書館の仕事のノウハウを持つ人が町の中になくなってしまふ。直営に戻るとなった時に図書館の仕事をやっていこうという人が残らなくなってしまふ。一部委託であれば職員が残ってるので、また直営に戻すことは可能だと思うが、指定管理の場合はそのノウハウを持つ人が完全になくなってしまうので、継続していく保証がないにもかかわらず、指定管理に移すというのはとても不安がある。

委員) 予算的に言えば、町の新庁舎はまだ分からないと思う。新庁舎

について、予算的な事はまだシミュレーションを出せないのではないか。

事務局) 新庁舎についてはまだ構想段階なので、金額については全く定まっていない。規模も定まってないので何とも申し上げられない。

委員) 図書館の予算にも色々と影響が出ると思うので、その辺りはきちんと金額の計算はしてもらいたい。

委員) 図書館の運営方法に直営、一部委託、指定管理という3種類があることから、予算面、費用面の金額なども、とても大事だと思う。ただそこに現れてこない、例えば直営や一部委託にしていたが、役場の職員などの負担を考えて、持続可能な形で、きちっと長く安定していい図書館が続いていくためにというような視点も必要だと思う。図書館に従事する町の職員や、会計年度職員などが疲弊してアイデアが出なくなり、楽しい図書館でなくなる事態が、長い目で見たらどうなのかということも気になった。なので次回以降、事務局の説明をしっかりと聞きながら考えていきたい。

委員) 本質は図書館とは何か？というところだと思う。図書館とはどういった仕事をするのが基本なのかというところを逃してはいけないと思う。先ほど働いてる方の疲弊のことを言っていたが、指定管理の方にも言えることではないか。ここ最近いろいろな物品が値上がりしているが、指定管理の予算を決めてしまったら、事業者はその金額の中でやりくりをする。そうすると、その事業者はどこを減らすかとなれば、やはり人件費になる。人件費を減らすということは、結局この公共の施設の中でワーキングプアの人たちを増やすことになってしまう。なるべく安くと考えていると思う。ただ事業者の方は自分の会社の利益が大切で、そこを維持していかなければ時給が減ってしまったり、正職員ではなくなってしまうりする。直営がいいというわけではなく、そういったところまで、心配していかないといけないと思う。本当に町の職員の人が大変だということも理解できる。1番の問題は、町が人員を増やさないこと。所管職員の人員をもっと増やしてくれれば問題はないが、町の方の図書館職員を増やしてくれるという動きはない。図書館の職員の人たちが大変だから、指定管理にしましょうなのか、協議会でもっと図書館に職員を増やしてほしいという方向に持っていくのか。人員はすぐには増えないかもしれない。だが正職員が増えることが1番いいことなのだから、職員を増やす方向に持っていくという、選択肢もあるのではないか。

委員) 隣町の宮代町立図書館が指定管理制度をとっていて、株式会社図書館流通センターという会社が請け負っている。まずはその指定管理で行っている図書館がどのような図書館なのかを皆

で見学に行ったらどうかという提案をしたい。そして宮代町立図書館とは話をしており、2月10日の土曜日の2時半からということで、宮代町立図書館長と約束をしている。今回は指定管理制度をとっている図書館の見学だが、できれば一部委託を行っている図書館、全て直営で運営している図書館も見学して、比較できればもっといいと考えている。

(5) その他

◆ 図書館内棚表記(インデックス等)について

委員)以前よりも分かりやすくなった。

委員)分かりやすくなったと思うが、紺色は目立たないと感じた。

事務局)F類を紺色で分類している。色を変更しようかとも考えたが、混乱が生じるのではないかという理由もあって紺色にしている。例えば紺色をもう少し明るい色にすると、社会科学が300番台が薄い青になっているので、それと被ってしまうので色をもっと暗くしている。

委員)色というのは分類にガイドカラーがあるのか？

事務局)分類に対するガイドカラーはない。現在インデックスが番号ごとにそれぞれ入っている。インデックスの数もかなりあり、全部同じ色で見えづらいことから、当面は図書館で色を話し合っ決めて、インデックスを入れていくという話になった。基本的には同じ色を使ってはいない。分かりやすいように同系色は離すようにしている。またインデックスのサイズはB4としている。理由としてはA3では棚からはみ出してしまい、A4だと小さすぎて見えないため。問題が無ければ委託業者と相談をして、再度貼り出しを行いたい。その前に棚の整理を進めていきたい。